

## 平成29年度アドバイザー派遣事業実施レポート

- 実施研究団体 西部地区生活科・総合的な学習の時間研究会
- 実施期日
  - 第1回目 平成29年 6月 8日
  - 第2回目 平成29年 6月30日
  - 第3回目 平成29年 9月15日
  - 第4回目 平成29年11月13日
- アドバイザー所属及び氏名
  - 第1回目 國學院大學教授 田村 学
  - 第2回目～4回目 愛知教育大学副学長 野田敦敬

### ○実施内容

研究テーマ「豊かな心をもち、地域への愛着を深める子どもの育成」

研究仮説 「体験活動と豊かな学び合いを繰り返し積み重ねていくことで、進んでかわり合い、学び続けることができれば、豊かな心をもち、地域への愛着が深まる子どもに育つであろう」

### 研究の重点

- ①地域における体験活動を単元構想に位置づけ、繰り返し直に学ぶことを通して、地域のよさや地域の思いに触れ、地域への愛着を深める。
- ②児童が考えたい取り組みたい必要感のある課題を設定し、児童の主体性に基づく課題解決力を高める。
- ③失敗経験や、対象との考え方のずれに気付くことで、児童がやりたいことを目的意識や相手意識と結びつけて解決していく必要性を実感させる。
- ④児童同士の深い学び合いにつながる関係づくりや対話力を身に付ける。
- ⑤自己の課題と活動を関連させて振り返らせることで、学習によって自らの成長を感じさせる。

### ○授業公開及び授業研究会

- 第1回目 第6学年 総合「戦争と平和について考えよう」
- 第2回目 第2学年 生活科「会見大好き！行ってみようまちたんけん  
～会見のまちをもっと知ろう～」
- 第3回目 第5学年1組 総合「笑顔でかがやこう会見  
～保育園交流で見つけようすてきな関わり方～」
- 第5学年2組 総合「笑顔でかがやこう会見  
～会見ホテルサミットにむけて～」
- 第4回目 第3学年 総合 「おいしいまち会見～広めよう会見の柿～」

## ○ 指導を受けたこと

会見小学校は三年間の校内研究の二年目として平成29年12月1日に第4回中国地区生活科・総合的な学習の時間教育研究会並びに第1回鳥取県生活科・総合的な学習の時間研究会を開催した。昨年度から県内の生活科・総合的な学習の時間の研究を推進するため、会見小学校の研究を中心とした授業研究会に県内の小学校から多数の参加者があり、研修を深めることができた。

今年度はアドバイザー派遣により、4回の研究会を開催した。西部地区の教職員とともに研修を深めることができた。学習指導要領の告示前の時期でもあり、学習指導要領改訂に関わられている大学教授に助言いただき、これから進んでいく教科の方向性や児童につけたい力など新しい情報を得ることもできた。

授業についての助言内容は次のとおりである。

### 【田村先生から】

- ・会見小学校の単元構想は、学校単元として地域素材が設定されている。地域のよさを生かした単元構想がなされ、特長的であり、長いスパンで取り組むこともできる。3年生の「柿」4年生の「ほたる」6年生の「平和の桜」など地域に根ざした豊かな学びが期待できる素材である。
- ・教師の本気・熱意が子ども達に伝わってくる。教師が本気になれば、児童は必ずついてくる。
- ・学習提示が充実すれば、前時までの振り返りができたり、話し合いの中で活用したり振り返りをしたりできるので学習に大変有効である。
- ・相手意識や目的意識を持たせるための工夫された板書（構造的板書）が必要である。前時に話題になった類別や比較、関連づけ、焦点化など目的に応じて板書を工夫していきたい。
- ・発達段階や目的に応じた思考ツールの活用が必要である。

### 【野田先生から】

- ・意図的指名やマグネットを活用して誰の考えかを明確にする手立てを必ず行わなければならない。主体的に聞くことが大切である。
- ・児童の語り合いは、学級経営が基盤である。友だちの話を「聞く」姿勢を育てることが大切である。
- ・内容や方法を深く話し合うためには、グループ発表を充実させる必要性が大切である。
- ・振り返りを通して、自分と対話していく。この時間を大切にしてほしい。
- ・話し合いに「必然性」があるかで深い話し合いになるかそうでないかが決まる。それは教師の教材研究の深さでもある。
- ・本校の話し合いのキーワードは「愛着」「誇り」「地域貢献」である。研究会ではこのキーワードを常に頭に入れながら取り組んでほしい。